



報道関係各位

2025 年 10 月 9 日

国立大学法人東京藝術大学
三菱地所株式会社

大学の未来/都市の未来が交錯する道を拓く、ポストユニバーシティ/ポストシティの探索 都心型アートセンター機能の実証プロジェクト始動

-- the way of POST UNIVERSITY / POST CITY

国立大学法人東京藝術大学（東京都台東区、学長：日比野 克彦、以下 東京藝術大学）と三菱地所株式会社（東京都千代田区、執行役社長 中島 篤、以下 三菱地所）は、2022 年 12 月に締結した包括連携協定^{※1}に基づき、2024 年 10 月より「都心型アートセンター機能の研究開発と実践」に係る社会連携講座を開設しております。講座での都心型アートセンターのビジョンや必要機能に関する議論を経て、このほど、アートセンターの機能検証を目的とした実証プロジェクトを始動しました。

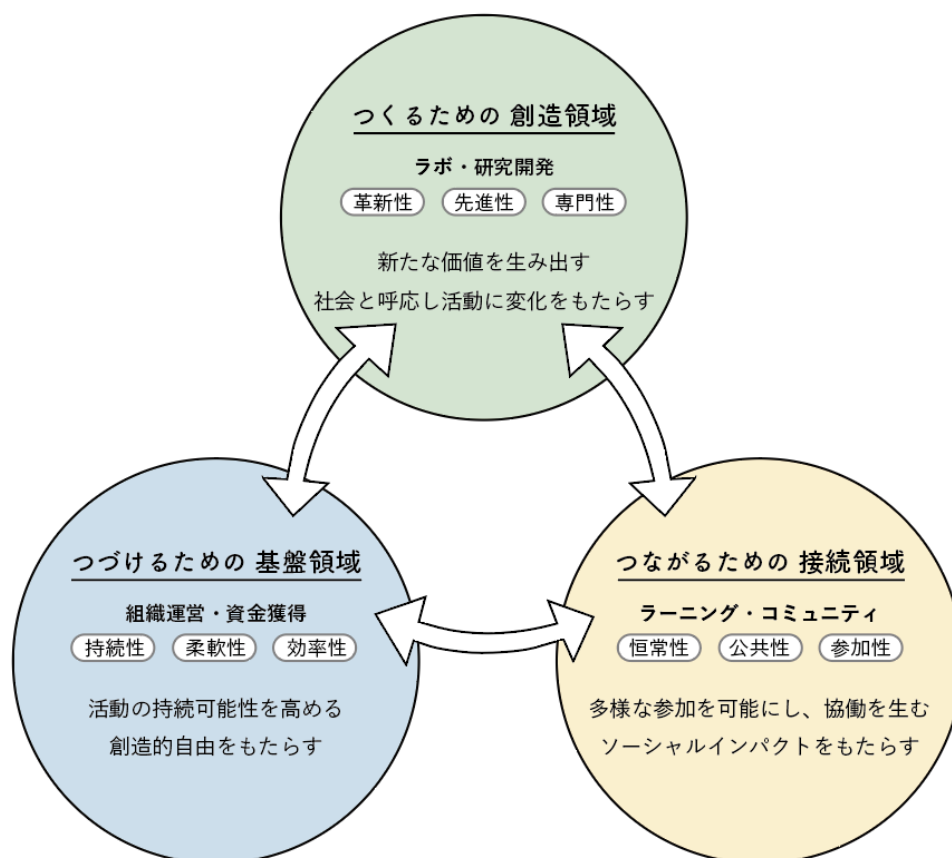
本実証プロジェクトは、三菱地所がまちづくりを進める大手町・丸の内・有楽町（大丸有）エリアというビジネスセンターに、東京藝術大学が 138 年かけて培ってきた「芸術」というクリエイティブエンジンをインストールすることで、未来の大学「ポストユニバーシティ」と未来の都市「ポストシティ」のあり方を探る取り組みとなります。

都市型アートセンター機能の実証は両者が取り組む「TOKYO WELL CITY 構想^{※2}」に基づき、すでに有楽町で実践的なアートの取り組みをおこなっている「有楽町アートアーバニズム YAU^{※3}」や、東京藝術大学の教員やゲスト講師たちによって開講される社会人向け授業シリーズ「有楽町藝大キャンパス^{※4}」と連携し、アートを媒介として多様な主体（企業、行政、就業者、来街者、アーティストなど）を巻き込むことで、社会と呼応する大学のあり方を探求するとともに、国際性、多様性、創造性を兼ね備えた持続可能な都市の未来を共創します。

両者は、芸術の革新を推進する東京藝術大学と、大丸有エリアを日本をリードするビジネスセンターへと進化させてきた三菱地所で連携し、アートとビジネスが融合する協創環境を育成することで、両分野の成長を促し、社会の発展に貢献することを目指してまいります。

【創造的循環を支える要素と実証プロジェクト一覧（案）】

都市型アートセンター機能に係る本実証プロジェクトでは、〈つくる〉〈つなぐ〉〈つづける〉を循環させ、創造・実験の場を社会に定位させる「創造的循環」のアプローチから、以下の3つの要素を軸に、都心型アートセンターのビジョン策定のための様々な実証実験を展開します。大丸有を実験場に、参加と対話を通じて産官学が横断的につながり、成果を次の研究・制作へ還流させることで、新たな価値と担い手を生み続けることを目指します。



つくるための創造領域

大丸有エリアをフィールドに、研究・制作・探究が交差する領域横断の共創拠点の構築。東京藝術大学の教員・学生・研究室をはじめ、国内外のアーティスト、クリエイター、研究者が集い交わる多様な創造性による新たな価値の創出。

● アートプロジェクトの実践

- ①『拡張するファッション in 大丸有』のリサーチと開催
- ②都市の課題（災害やゴミなど）を題材に、リサーチとワークショップ、展示会の開催

● 海外の大学との共同ワークショップの実施

海外の大学の建築の教員や学生と連携し、大丸有を舞台に共同ワークショップを開催



つながるための接続領域

大丸有エリア各所を舞台に、展示・公演・ワークショップ・ラーニング／コミュニティプログラム、トーク、音楽イベント等による専門知の開き方の探索と社会接続。ワーカーをはじめ子どもから大人まで、多様な層が参加可能な学びと交流の場の創出。

● 音楽コンテンツ

大丸有ならではの場所や曲目、編成によるコンサートの開催等

● SP レコードを聴く会

藝大の SP レコードコレクションを活用した音楽コンテンツの開発

● 国際連携 / 展覧会

アジアへのリサーチを経て展覧会を開催するなど、海外との連携を図りつつ、大学との連携、大丸有での開催固有のコンテンツを開発

● 屋外空間等での演劇の上演

大丸有での実証を通して、屋外空間だからこそできる演劇の上映や、イベントの開催を検討



つづけるための 基盤領域

創造的循環を支える運営・組織体制の設計。大学とまちの連携を円滑にする制度・ガバナンスの整備、資金調達スキームの設計、大丸有エリア企業との共同開発、東京藝術大学の OB0G・パートナーを結ぶリソース／コミュニティ接続基盤の構築と、持続的なマネジメントモデルの確立。

● 有楽町での授業展開

大丸有にある劇場と連携し、学生/社会人向けに劇場の裏側を知る授業を開催

● 音楽学部授業の公開発表

学内で発表用に実施している授業を、大丸有にあるホールや公共空間などで公開

● 領域を跨いだ学生 / OB0G とのネットワーク構築

OB0G をまじえて公募システム、ネットワーク基盤の整備

● ポストユニバーシティ構想

プラットフォームとしてのラーニング



【関連プロジェクト一覧】

「創造的循環」を支える要素にまつわるプロジェクトのみではなく、大学の資源を活用した大丸有での複数の実践プロジェクトと連携します。

野良展示 1.0

会期：2025 年 10 月 27 日（月）－11/28（金）※期間中、順次作品展示予定

会場：大手町川端緑道 8 号線（東京都千代田区大手町 2 丁目 3 付近（日本橋川沿い））

野良展示とは、東京藝術大学が主催する、ある場所が従来有する特性や特徴(作為のない状況や自然現象を含む)を活用した展示/介入であり、日常に溶け込ませつつも、違和感を与えることで、感性のスイッチをそっと押すことを試みるものです。

「I LOVE YOU」プロジェクト《TOKYO WELL CITY》

会期：2025年12月9日（火）・10日（水） 会場：丸ビル、三菱ビル 1F サクセス ほか

「都市における未来の働き方」をテーマに、東京藝術大学の在学学生、卒業・修了生、在籍教員を対象にした企画公募事業として2025年7月に始まり、採択者6名は世界の文化的ランドマークや都市のクリエイティブハブを現地訪問してきました。その成果をリサーチと合わせて、東京都心で働くビジネスパーソンの創造性を喚起するような、あるいは、より心豊かな働き方を可能にする街のあり方を提示するような、作品展示、上映、ワークショップという形で発表します。なお、これまで両者で取り組んできた「藝大アーツイン丸の内^{※5}」は社会連携講座の一環で開催される本プロジェクトに引継ぎ、学生、卒業生、教職員の人材育成、教育的観点のもと継続されます。

FUTURE VISION SUMMIT 2025

会期：2025年12月9日（火）・10日（水） 会場：丸ビル、三菱ビル 1F サクセス ほか

「FUTURE VISION SUMMIT 2025」実行委員会（構成団体：特定非営利活動法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）、Forbes JAPAN、「有楽町アートアーバニズム（YAU）」実行委員会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会）による、日本有数のビジネス街である大手町・丸の内・有楽町（大丸有）から、社会や経済の未来を、アートによるビジョンメイキングを交えて考える都市型イベント。これからの未来に向けた問いを共有し、次の社会に示唆を与えてくれる「人」や「取り組み」が集結します。

【コンセプトとキービジュアル】

本実証プロジェクト全体を貫くコンセプトは「the way of --」。

それは単なる方法や手段を示すのではなく、アートと都市を起点に、人が学び・働き・暮らし・未来を共に創るための〈道〉を象徴します。



「the way of」は常に拡張可能なフレーズです。

「the way of ART」「the way of CITY」「the way of LIVING」「the way of COMMUNITY」——さまざまな言葉と結びつき、都市的なスケールと日々の生きる術を横断する道筋を照らし出します。こうして大学と都市が共に歩み、多様な実践を結びながら「創造的循環」を社会にひらきます。

【社会連携講座概要】

名称： 社会連携講座「都心型アートセンター機能の検証と実践」

期間： 2024 年 11 月 1 日～2027 年 10 月 31 日（3 年間）

主催： 東京藝術大学、三菱地所

【体制】

[東京藝術大学]

- ・プロジェクト全体統括： 日比野克彦 学長
- ・プロジェクト担当： 大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 毛利嘉孝 教授
芸術未来研究場^{※6} 菅沼 聖 特任准教授
芸術未来研究場 東海林 慎太郎 特任准教授
芸術未来研究場 森 純平 特任准教授
芸術未来研究場 下里 杏奈 特任助教
芸術未来研究場 戸塚 愛美 特任助手
芸術未来研究場 鶴田 航 特任助手
芸術未来研究場 栗田 結夏 特任助手
- ・コンテンツ開発： 音楽学部楽理科 福中 冬子 教授
音楽学部器楽科 吉井 瑞穂 准教授
大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 長島 確 准教授
演奏芸術センター 楠田 健太 准教授
美術学部建築科 檜村 芙実 准教授
美術学部先端芸術表現科 西尾 美也 准教授
大学院映像研究科メディア映像専攻 服部 浩之 准教授

[三菱地所]

- ・プロジェクト担当： まちづくり推進部他

※1 東京藝術大学と三菱地所の包括連携協定：[関連リリース](#)

※2 TOKYO WELL CITY 構想

Art を基盤・中核として、Science, Technology, Engineering, Medical の最高峰の研究力と、まちづくりの知見・実践を結集し、以下の将来像を目指す構想。

- ・まち全体にアート／アーティストが集積・偏在し、アートを媒介として多様な人々（ビジネス、行政、異分野等）が集い、ともに実践している。
- ・働く人や組織の Well-being／創造性を高めるコンテンツ／プログラムが、まちの彼方此方に広がっている。

・従来の企業・人材が変わり、面白い企業・人材が集まり、スタートアップが育つ国際的な環境が形成されている。

※3 有楽町アートアーバニズム YAU

<https://arturbanism.jp/>

※4 有楽町藝大キャンパス

<https://yurakucho-geidai-campus.jp/>

※5 藝大アーツイン丸の内

東京藝術大学と三菱地所は、2007 年より「藝大アーツイン丸の内」をスタートし、2008 年～2024 年まで東京藝術大学で研鑽を積んだ将来の飛躍が期待される若手芸術家に「三菱地所賞」を授与し、丸の内の象徴である丸ビルを会場に、受賞者を紹介・表彰するプログラムとして、展覧会と記念リサイタルを開催していた。

※6 芸術未来研究場



芸術未来研究場は、人が生きる力であるアートを根幹に据え、人類と地球のあるべき姿を探求するための組織として 2023 年 4 月に創設されました。閉じた施設としての「研究所」ではなく、様々なプレイヤーが集い、つながり、社会に開かれたアートを実践し、未来を共につくっていく場だから「研究場」と名付けています。

東京藝術大学は、伝統の継承と新しい表現の創造のための教育研究機関であると同時に、アートの未来を常に考え、様々なステークホルダーと共に社会を形づくる主体でもあります。アートの礎である「いまここ」にないものをイメージする力は、世界を変え、未来をつくる力です。これまでも、学部、学科、研究室単位では様々な学外の組織との協働がありましたが、今後は全学横断的にこれを推進していくことで、企業・官公庁・他の教育研究機関との連携を強化し、社会の様々な領域におけるアートの新たな価値や役割を増やしていきます。

<https://geidai-park.geidai.ac.jp/>

以 上

